

和歌山がやま

中坊瑛二くん・秀穂くん・紫月ちゃん(和歌山市)

「ぼうさい探検隊マップ」づくりに挑戦



中坊ファミリー

▽：日本損害保険協会、朝日新聞、日本災害救助ボランティアネットワークが主催する「第17回小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」に和歌山市の中坊瑛二くん(小6)、秀穂くん(小4)、紫月ちゃん(5才)兄妹3人でつくる朝日会「安全な街をつくり隊」と、和歌山代協の西川秀俊CSR委員長が参加。タブレット方式で、兄妹が住む通学路の防災・防犯・交通安全マップづくりにチャレンジした。タブレットを使ったマッ

危険な箇所の改善を提案

制作は今回がはじめて。

中坊くん兄妹は、8月22日、西川氏といっしょに通学路を歩き、歩道にはみ出た木の枝で雨の日傘が引っかかり転倒しそうな箇所があることなど「ぎげんなポイント」8カ所、地元の人や、学校の先生などにインタビュー、防犯に協力してくれるお宅など「安全ポイント」7カ所を地図に記した。

台風や大雨などの避難所に小学校など2カ所設定されているが、そこよりも、おぼあさんの家のほうが高い位置にあることがわかり、有事の避難場所について家族で話し合うキッカケになった。中坊くん兄妹がつくった「安原安全マップ」は、今年度のコンクールに出展する。



西川CSR委員長



タブレットを使って探検中!

今回チャレンジした中坊瑛二くんは「まちあるき探検で交通標識の意味などがわかり楽しかった。被災マップのことや、避難カード作成でいろんなことを学べました。」秀穂くんは「雨の日に危ない箇所の提案ができたよ。危険なことから守ってあげたい気持ちになりました。」紫月ちゃんは「道にバッタがしんでいたよ。虫さんも道に飛び足したらあぶないよ。」西川和歌山代協CSR委員長は「世界で一枚のぼうさい探検隊の地図がで

き上がりました。こども目線で危険な箇所改善の提案ができました。提言が改善されると、こどもたちの大きな自信につながります。今後もぼうさい探検隊マップコンクールを推奨していきたいです。」と感想を語っていた。

同コンクールは、楽しみながらまちを歩き、まちの人に話を聞いたりして防災・防犯・交通安全などに関する施設や設備、キケンな力所や改善してほしいことなどを地図にまとめて発表するプログラム。内閣府や文科省、警察庁、気象庁、ユネスコなど多数が後援している。昨年は全国で約1万8000人、280作品が応募。毎年のように多発している大災害などから身を守る民間の教育プログラムとして注目が高まっている。

「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」の受付は随時行われている。チャレンジしたいグループは(一社)和歌山県損害保険代理業協会 西川秀俊CSR委員長へ連絡を。TEL 073・460・4761、携帯 090・7110・2066へ。